

# 令和2年度 年間指導計画を見直す際の参考資料

中学校 第1学年 「数学（数研出版）」

(★)は移行内容

98時間(70%)

週	指導事項	単元名	小単元名	時間数	留意点
1 2 3 4 5	A(1) ア(ア)(イ) ウ(ウ) イ(ア)(イ)	1. 正の数と負の数	1-①符号のついた数	2	・具体的な事象を考察し、正負の数を用いて反対の方向や性質を表せることを扱う。 ・(P.18)の用語は1-①にて扱う。
			1-②数の大小	1	
			確かめよう		・家庭学習を利用する。
			2-①加法	3	・符号が同じ2数の加法を基に、符号が異なる場合の計算の仕方を考え、説明する活動を行う。
			2-②減法	2	・加法を基に減法の計算の方法を扱う。
			2-③加法と減法の混じった計算	1	
			確かめよう		・2-①～③の練習問題として授業や家庭学習で扱う。
			3-①乗法	4	・加法の学習を基に、乗法の計算の仕方を考察する。
			3-②除法	2	・除法は乗法の逆の演算であることを用いて、除法の計算方法を端的に捉える。
			確かめよう		・3-①②の練習問題として授業や家庭学習で扱う。
			4-①四則	2	
			4-②正負の数の利用	1	・負の数も用いて表すことで、増減を明確に示し、効率よく平均を求められることを扱う。
			確かめよう		・4-①②の練習問題として授業や家庭学習で扱う。
			素因数分解(★)	1	・自然数を素数の積で表すことにより、算数で学習した整数の性質について捉え直す。
			20時間		
6 7 8	A(2) ア(ア)(イ) ウ(ウ)(エ) イ(ア)	2. 文字と式	1-①文字を使った式	1	・小学校での学習を基に、とびらと合わせて扱う。
			1-②2文字式の表し方	1	
			1-③いろいろな数量と文字式	2	
			1-④式の値	1	
			確かめよう		・1-①～④の練習問題として、授業や家庭学習で扱う。
			2-①1次式の加法、減法	2	
			2-②1次式の乗法、除法	3	・2-①の内容を補いながら扱う。
			2-③関係を表す式	3	・等式と不等式を扱い、等号が計算の過程だけでなく、等しい関係を表すことを扱う。
			確かめよう		・2-①～③の練習問題として、授業や家庭学習で扱う。
			14時間		
9 10	A(3) ア(ア)(イ) イ(ア)(イ)	3. 1次方程式	1-①方程式とその解	1	
			1-②等式の性質	2	・等式の性質を基に、もとの方程式と同値な方程式を段階的に導いて解を求めることを扱う。
			1-③1次方程式の解き方	4	
			1-④比例式	1	・1次方程式を活用する場面として簡単な比例式を作り、解くことを扱う。
			確かめよう		・1-①～④の練習問題として、授業や家庭学習で扱う。(P.105)基本の問題も同様。
			2-①1次方程式の利用	4	
			確かめよう		・2-①の練習問題として、授業や家庭学習で扱う。
13時間			基本の問題、章の問題、単元末テスト等	1	
11 12 13	C(1) ア(ア)(イ) ウ(ウ)(エ) イ(ア)(イ)	4. 比例と反比例	1-①関数	1	
			1-②比例	2	・変域を負の数まで拡張し、比例は文字を用いた式で表現できることを扱う。
			1-③座標	3	・表、式、グラフを関連づけながら比例定数aの意味を扱う。
			1-④比例のグラフ		
			確かめよう		・家庭学習を利用する。
			2-①反比例	2	・比例と比較しながら反比例の変化や対応の特徴、式を扱う。
			2-②反比例のグラフ	2	・電卓を利用して計算の効率化を図り、グラフをかき活動を工夫する。
			確かめよう		・2-①②の練習問題として、授業や家庭学習で取り組む。
			3-①比例と反比例の利用	2	
			13時間		
14 15	B(1) ア(ア)(イ) イ(ア)(イ) ウ(ウ) B(2) ア(イ)	5. 平面図形	1-①直線と角	1	
			1-②図形の移動	3	・教科書や学習プリントを活用し、図形をかいたり調べたりする活動を工夫する。
			確かめよう		・1-①②の練習問題として、授業や家庭学習で扱う。
2-①基本の作図	3	・(P.155)垂線の作図方法を見だし、作図できる理由を説明する活動を行う。			

16		2-②いろいろな作図	1		
		確かめよう			
		3-①円	2		
		3-②おうぎ形	3	・ $\pi$ や比例の考えを用いて扇形の弧の長さや面積を扱う。	
14時間		確かめよう			
		基本の問題、章の問題、単元末テスト等	1	・基本の問題は内容を学習した次時の開始時に、前時の復習問題として扱う。	
17	B(2) ア(ア)(イ) イ(ア)(イ)	6. 空間図形	1-①いろいろな立体	1	
		1-②空間における平面と直線	3	・直線や平面の位置関係を捉える観察や操作、実験などの活動を扱う。	
18		1-③立体のいろいろな見方	3	・平面図形の運動によって構成される空間図形を考察し、その性質を見いだす活動を扱う。 ・投影図と見取図を関連付けながら空間図形を平面上に表現する活動を行う。	
		確かめよう		・1-①～③の練習問題として、授業や家庭学習で取り組む。	
19		2-①立体の表面積	2		
		2-②立体の体積	2	・柱体と錐体を関連づけながら体積を扱う。	
		2-③球の表面積と体積	2	・柱体と錐体の体積の関係と関連づけながら球の体積を扱う。	
		確かめよう		・2-①～③の練習問題として、授業や家庭学習で取り組む。	
13時間		基本の問題、章の問題、単元末テスト等	1	・基本の問題は内容を学習した次時の開始時に、前時の復習問題として扱う。	
20	D(1) ア(ア)(イ) イ(ア)	7. 資料の整理とその活用	1-①度数の分布	2	
		1-②資料の比較	1		
21	D(2) ア(ア) イ(ア) 小6年D(1) ア(ア) イ(ア)	累積度数(★)	1	・累積度数の必要性和意味を扱う。	
		1-③資料の代表値(★)	2	・量的データの分布の中心や散らばりを捉え、問題の結論を判断することを扱う。	
		1-④近似値と有効数字(★)	0	・3年生へ移行。	
		1-⑤資料の活用	2	※時間数の精選方法参照。	
11時間		確かめよう		・3は扱わない。	
		ことからの起こりやすさ(★)	1	・多数回試行の確率を扱い、不確定な事象の起こりやすさの傾向を読み取り、表現する。	
		章の問題、単元末テスト等	1		

### ※時間数の精選方法(例)

○授業中の問題を精選する。

- ・生徒の実態に応じて授業中に扱う教科書の練習問題を精選し、残りは家庭学習の課題にするなど、単元における学習の工夫を図ります。
- ・例えば、定着度が低い分数の計算は授業中に扱い、整数の問題は家庭学習を利用することが考えられます。家庭学習部分につまずきが見られた生徒に対しては、解法やポイントをまとめたプリントを配布する、小単元の末に余剰時数を使って補充の時間を設定する、校内で連携した個別支援を実施するなどの対応をとることが考えられます。

○指導内容を基に、扱う活動や解法を精選する。

- ・複数の解法がある問題については、本時のねらいの達成に必要な解法を精選して扱うことが大切です。
- ・例えば、1次方程式の利用では、方程式を解く場面で複数の解き方があっても1つのみ扱ったり、板書のみ示したりして、解の吟味に時間をかけることが考えられます。
- ・逆に、例えば、P.217ヒストグラムや他のデータを活用して集団の傾向を読み取る活動では、多様な考えを扱いながら自他の意見や資料を批判的に考察することで、よりよい判断をしようとする態度を養います。

○指導と評価の一体化を重視した継続的な指導を行う。

- ・数学は既習を活用しながら学習を進めるため、学習内容を復習することができます。授業中の問題練習量が不足する分、ノート指導の充実を通じて、どこで学習したのかを明確に示し、学び直しの機会を意図的に設定することが大切です。
- ・限られた時間の中で生徒の学習状況を適切に見取り、指導と評価の一体化が図られた授業を通じて基礎基本の定着を図ります。

●平成29年度告示の指導要領解説数学編を基に、資料を作成しています。